

(2) 自立活動の時間における、児童生徒の「できる」を増やす授業づくりの進め方について

本研究では、自立活動の時間における、児童生徒の「できる」を増やす授業づくりについて、「(ア) 指導内容と学習の場面を決める」「(イ) 授業内容（学習内容、題材と目標）を考える」「(ウ) 本時の目標から到達状況の基準を考える」「(エ) 授業を実践する」「(オ) 本時の評価を行い、授業改善につなげる」の5つの過程を考え、整理しました。また、評価を基に授業改善について考える際に、その(ア)(イ)(ウ)(エ)の各過程を確認したり見直したりすることでPDC Aサイクルの充実に図りながら、授業づくりを進めていくこととしました（図8）。

次頁資料1に、授業づくりに係る5つの過程についての詳細を示しています。

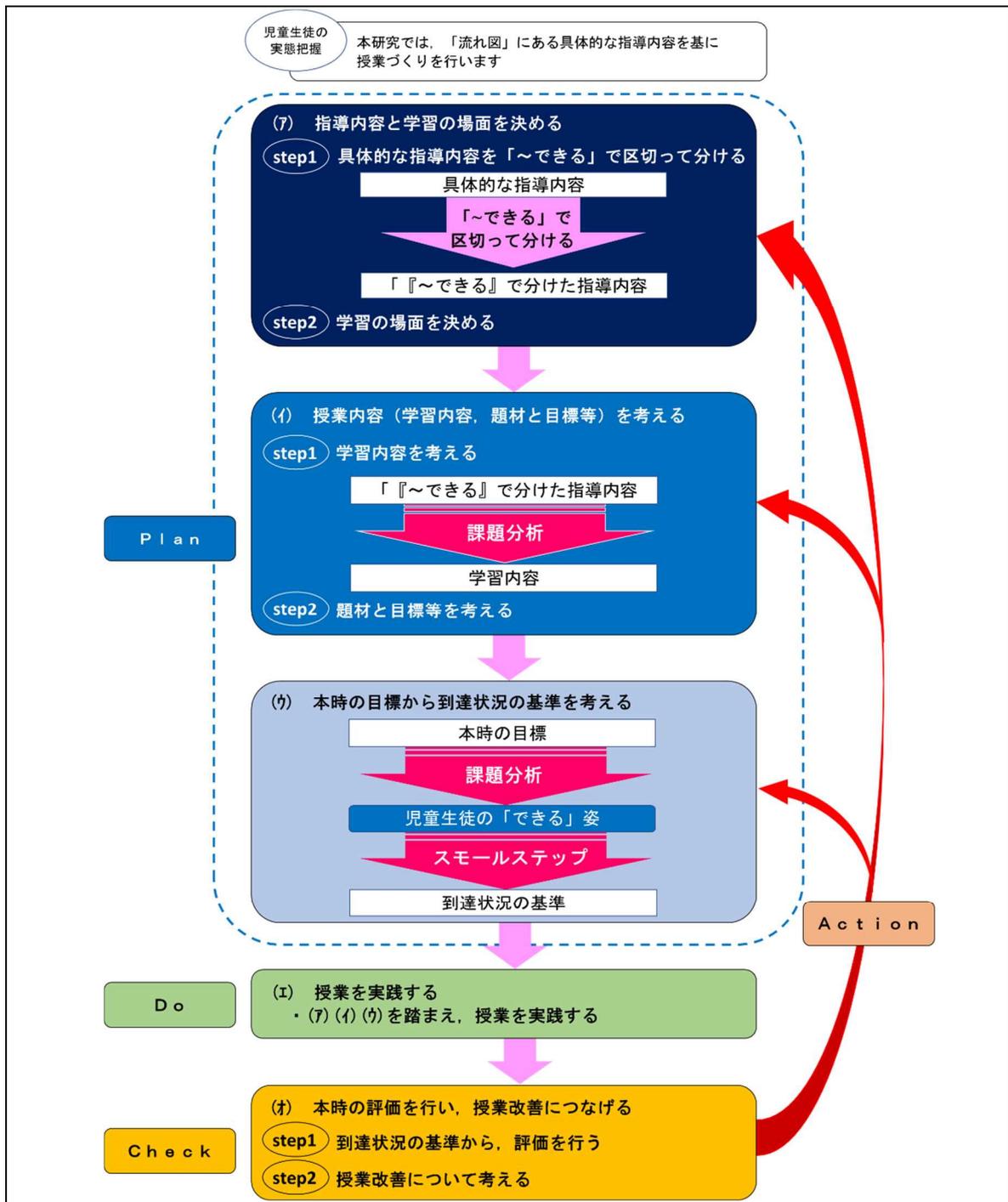


図8 自立活動の時間における、児童生徒の「できる」を増やす授業づくりのイメージ

**(7) 指導内容と学習の場面を決める**

☞「授業づくりナビ」P1(7)指導内容と学習の場面を考える

**step1** 複数の具体的な指導内容の中から、授業で取り扱う具体的な指導内容を選びます。選んだ具体的な指導内容には、指導する内容が複数あったり、指導の手立てなどが含まれていたりする場合があります。何を指導するのかを明確にするために、具体的な指導内容を「～できる」で区切って分け、指導内容を整理します（『～できる』で分けた指導内容）。

**step2** 『～できる』で分けた指導内容の一つ一つを、どの学習の場面で指導するのかを決めます。自立活動の指導は、学校の教育活動全体を通じて行います。本研究では、自立活動の指導を行う学習の場面について、学校の教育活動全体の中から、特別支援学級における自立活動の時間、特別支援学級における学習や生活の場面、交流学級における学習や生活の場面の3つを想定します。そして、『～できる』で分けた指導内容の一つ一つについて、どの学習の場面で指導を行うのかを決め、自立活動の時間に行う指導内容を明確にします。学習の場面を決める際は、児童生徒にとって学習効果が高い環境であることや、各教科等との関連などを念頭に置いて考えます。

**(イ) 授業内容(学習内容、題材と目標等)を考える**

☞「授業づくりナビ」P2(イ)授業内容(学習内容、題材と目標等)を考える

**step1** 授業内容を考える最初の段階として、『～できる』で分けた指導内容について、どのような学習内容が考えられるか、児童生徒の実態から考えます。その際、課題分析を参考にし、『～できる』で分けた指導内容を達成するために、どのような力を身に付けることが必要なのか、学習内容として細かく具体的に、複数思い浮かべます。学習内容を考えていく際は、児童生徒の実態を基に、年間行事予定や自立活動の時間及び各教科等の年間指導計画などとの関連を図りながら、児童生徒にとって最善と思われる学習内容を考え、授業で取り扱う学習内容を選びます。

**step2** 授業内容を考える次の段階として、題材と目標等を考えます。選んだ学習内容について、児童生徒の実態から、題材や教材、指導方法等を考えます。その後、題材の目標や指導計画、各時間の目標について考えます。

**(ウ) 本時の目標から到達状況の基準を考える**

☞「授業づくりナビ」P3(ウ)本時の目標から到達状況の基準を考える

本時の目標から、児童生徒の「できる」姿を複数思い浮かべます。その際、課題分析を参考にし、具体的な行動や教師が観察できるより細かな状態としてイメージします。思い浮かべた複数の児童生徒の「できる」姿を、スモールステップを参考に、児童生徒の実態に近い姿から段階的に積み上げて到達状況の基準とします。

**(エ) 授業を実践する**

(7)(イ)(ウ)を踏まえ、授業実践を行います。

**(オ) 本時の評価を行い、授業改善につなげる**

☞「授業づくりナビ」P4(オ)本時の評価を行い、授業改善につなげる

**step1** 授業実践の後、(ウ)で考えた到達状況の基準から、本時の目標に対する評価を行います。その際、児童生徒の行動や、教師が観察した児童生徒の様子を到達状況の基準に照らし合わせ、どの段階まで達成したかを判断します。

**step2** 評価を基に、児童生徒の「できる」を増やす授業づくりを目指して授業改善につなげていきます。その際、本研究における6つの授業改善の視点（目標の設定、学習内容の設定、活動の場、教材・教具、教師の関わり、その他）に沿って、改善の内容や方法を具体的に考えます。

**資料1 授業づくりに係る5つの過程についての詳細**